



株式会社 笹川組

2019年度 環境活動レポート

(対象期間：2018年9月26日～2019年9月25日)



発行日 2019年10月21日
発行責任者 村田真朗

認証番号 0008895

目次

- 1.組織の概要と認証・登録範囲
- 2.環境方針
- 3.エコアクション21実施体制組織図
- 4.環境目標とその実績
- 5.環境活動計画
- 6.環境活動計画の取組結果とその評価、次年度への取組
- 7.環境関連法規制の遵守
- 8.代表者による全体の評価と見直し結果

報告要件

報告対象期間

2018年(平成30年)9月26日～2019年(令和元年)9月25日

報告対象組織

環境マネジメントシステムを構築している本社及び京都支店、
湖南営業所、荒張作業所の環境取組を対象とする。

Total Produce

「匠の技」創業60年の信頼と実績でお客様の納得のいく建物をご提供させていただきます。

当社独自の技術と実績でお客様の納得の行く建物を
相談からデザイン、設計、施工、メンテナンスまでトータルサポート

1 組織の概要と認証・登録範囲

事業者名



事業概要

会社概要

設立 昭和27年4月
資本金 1億円
代表者 取締役社長 藪本俊作
従業員数 57名(令和元年9月現在)
本社所在地 滋賀県大津市

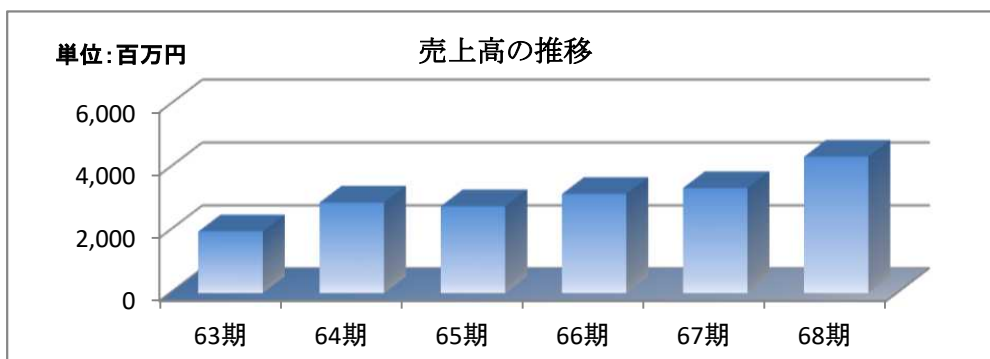
事業活動

- ◆土木工事
- ◆上下水道工事
- ◆建築工事
- ◆解体工事

事業の規模と事業年度

単位:百万円

63期	64期	65期	66期	67期	68期
平成25年9月26日 ～平成26年9月25日	平成26年9月26日 ～平成27年9月25日	平成27年9月26日 ～平成28年9月25日	平成28年9月26日 ～平成29年9月25日	平成28年9月26日 ～平成29年9月25日	平成30年9月26日 ～令和元年9月25日
1,953	2,874	2,758	3,148	3,336	4,330



環境保全関係の責任者及び担当者連絡先(電話番号等)

環境管理責任者

営業部長:村田真朗 連絡先: 077-523-2314

連絡担当者

事務局:酒井 洋・松田斉丈 連絡先: 077-523-2314

許認可

建設業許可

国土交通省 許可 特28-464号

エコアクション21

認証・登録番号:0008895

担当事務局:地域事務局びわこ

品質管理ISO9001

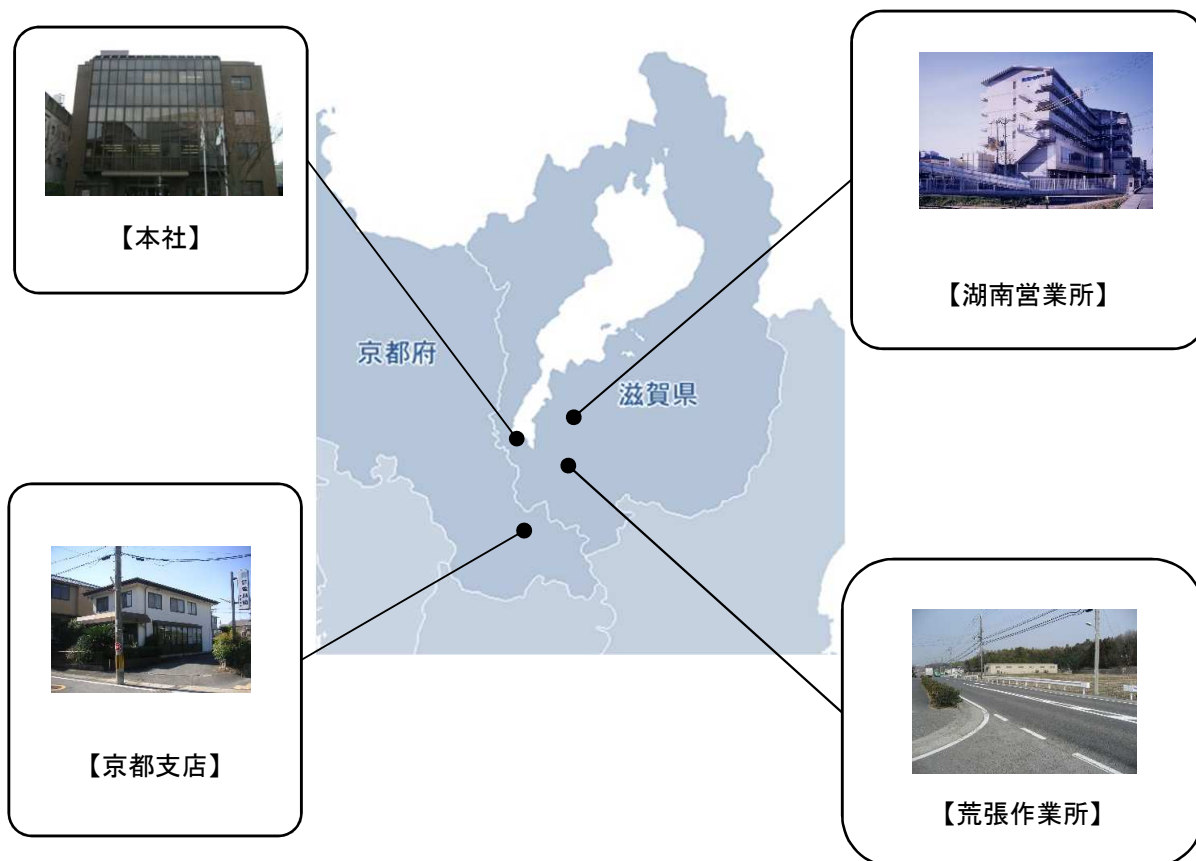
審査期間: ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社

認定機関: UKAS

認定番号: CI/1879

所在地及び支店

本社 〒520-0806 滋賀県大津市打出浜13番15号
 京都支店 〒610-0111 京都府城陽市富野森山14番地の2
 湖南営業所 〒520-3035 滋賀県栗東市霊仙寺1丁目2番19号(ESPO栗東内)
 荒張作業所 〒520-3003 滋賀県栗東市荒張2027



事業組織

面積：㎡	本社	京都支店	湖南営業所	荒張作業所
事務所床面積	2,512.57	153.09	25.38	99.37
倉庫床面積	-	-	-	654.48
駐車場面積	996.00	547.84	786.75	-
資機材置場面積	-	-	-	4,873.00
認証・登録	○	○	○	○

過去3ヵ年の環境負荷実績

項目	単位\年度	2016年	2017年	2018年	傾向
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	495,274	701,123	951,099	
廃棄物の排出量	トン	2,590	2,334	2,018	
水使用量	m ³	1,880	4,339	8,445	
化学物質の使用量	kg	16,220	9,902	5,620	

【株式会社 笹川組 本社】

郵便番号: 520-0806

住 所: 滋賀県大津市打出浜13番15号

交通手段: 京阪電気鉄道石山坂本線石場駅より徒歩で5分



【株式会社 笹川組 京都支店】

郵便番号: 610-0111

住 所: 京都府城陽市富野森山14番地の2

交通手段: JR奈良線長池駅より徒歩で10分



【株式会社 笹川組 湖南営業所】

郵便番号: 520-3035

住 所: 滋賀県栗東市霊仙寺1丁目2番19号

交通手段: JR東海道本線栗東駅より徒歩で8分



【株式会社 笹川組 荒張作業所】

郵便番号: 520-3003

住 所: 滋賀県栗東市荒張字上長野2027

交通手段: JR東海道本線栗東駅より帝産湖南交通コミュニティセンター金勝

帝産湖南交通コミュニティセンター金勝よりくりちゃんバス浅柄野線美之郷停留所より徒歩で1分





環境方針

環境理念

当社は、地球規模での環境保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動において、環境に配慮した循環型社会の構築に貢献します。

行動指針

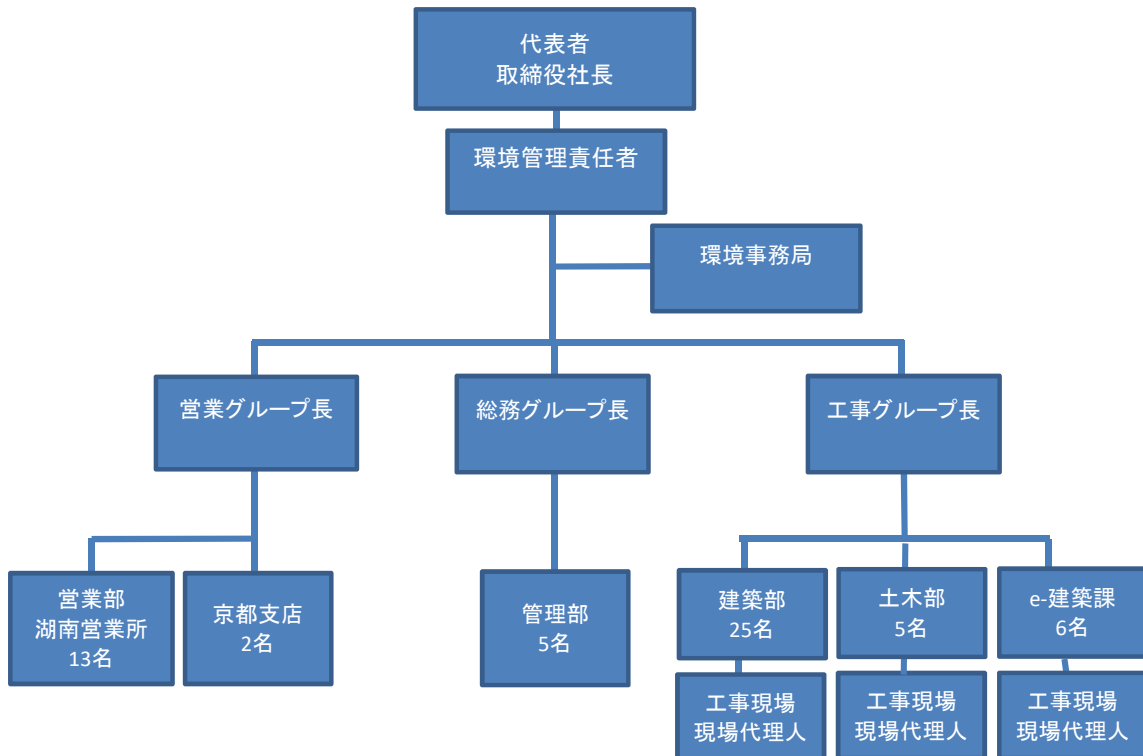
当社は、琵琶湖を望み水環境への心遣いと共に歩んできた。一方では建設事業を通じて社会資本の充実に寄与し社会の付託に応えてきたが、それに伴い大きな環境負荷も同時に発することになった。ここに今日の地球環境問題の深刻さをみる時、環境負荷の継続的な削減に取り組む必要を痛感し、社員一同ここに以下の方針の下、取り組むことを誓約するものである。

1. 建設事業の企画、設計、施工、維持管理の各段階で例外なく省エネルギー、CO₂削減等、提案、実行する。
 - ☆ 事務所での電気使用量及び重機車両の燃料使用量を減し、CO₂の排出量を削減します。
 - ☆ 建設現場の廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより建設リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。
 - ☆ 建設現場から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。
 - ☆ 施工で使用する建材の化学物質の使用に際しては適正な管理に努めます。
 - ☆ 環境に配慮した施工を推進します。
 - ☆ グリーン購入の拡大を推進します。
 - ☆ 環境活動の社会貢献を推進します。
2. 環境関連法規等を遵守する。
3. この環境方針は全従業員に周知、徹底する。

2012年11月20日

取締役社長 敦本俊作

EA21実施体制組織図



※全従業員は、当社に構築された環境経営システムを理解し、策定された環境方針の下、環境目標の達成に向けて、環境活動計画に基づき、一致協力して環境取組を行う。

役割、責任及び権限一覧

担当	内容
取締役社長	①環境経営システムに関する全ての責任と運用についての権限を持つ。 ②環境経営システムの構築・運用・管理に必要な資源を用意する。 (資源には、人材、設備、費用、時間、専門的な技能、技術を含む。) ③環境管理責任者を任命する。 ④環境方針の策定・見直し及び従業員への周知を行なう。 ⑤代表者による全体の評価と見直しを実施する。 ⑥環境活動レポートの承認。
環境管理責任者	①環境経営システムを構築し、実施し、管理する。 ②作成された環境への負荷及び取組の自己チェックを確認し承認する。 ③法規制等の遵守状況をチェックする。 ④環境方針及び自己チェック等に基づき環境目標を設定し、作成された環境活動計画を確認し承認する。 ⑤環境活動の取組状況を確認し、環境目標の達成状況を評価する。 ⑥問題点の是正、予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行なう。 ⑦環境活動の取組結果を代表者へ報告する。 ⑧EA21に関する運用管理の体制を構築し、各責任者を任命する。 ⑨環境活動レポートの確認
グループ長	①自部門における環境方針の周知 ②自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ③自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ④特定された項目の手順書作成及び運用管理 ⑤自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、試行、訓練を実施、記録の作成 ⑥自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
工事現場代理人	①責任範囲の環境目標及び環境活動計画の実施と環境事務局への達成状況の報告。 ②責任範囲の問題点の発見、是正、予防処置。
環境事務局	①環境経営システム運営のすべての事務を行なう。 ②環境への負荷及び取組の自己チェックを作成し、環境管理責任者へ報告する。 ③「環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況チェックリスト」を作成し、環境管理責任者へ報告する。 ④環境活動計画並びに運用手順書を作成し、実施達成状況を集計し、環境管理責任者へ報告する。 ⑤文書及び記録の管理保管。 ⑥外部コミュニケーションの窓口。 ⑦内部コミュニケーションの運営管理。

4. 環境目標とその実績

2014年～2016年の実績を把握しその平均値を基準値として、2017年～2019年の目標を下記の通り設定し、2017年10月より環境活動に取り組んでいます。尚、このレポートでは、2018年10月から2019年9月までの実績についてまとめました。

実施年度(中長期最終)

方針	取組項目	年度	基準年	2017年		2018年		2019年	
		単位	過去3カ年 実績平均	目標	実績	目標	実績	目標	実績
事務所での電気使用量及び重機車両の燃料使用量を減し、CO ₂ の排出量を削減します。(総務グループ)	電力消費量の削減(kwh)	%	基準値	1%削減	97.5%	2%削減	83.9%	3%削減	80.6%
		消費量	117,380.0	116,206.2	113,250.0	115,032.4	96,508.0	113,858.6	91,808.0
		kg-CO ₂	59,746.4	59,149.0	57,644.3	58,551.5	49,122.6	57,954.0	46,730.3
	ガソリンの燃費の向上(k/L)	%	基準値	1%向上	97.9%	2%向上	98.6%	3%向上	112.7%
		燃費	15.6	15.8	15.4	15.9	15.7	16.1	18.1
		kg-CO ₂	41,663.7	41,247.1	37,564.5	40,830.5	41,650.6	40,413.8	35,834.8
	軽油の燃費の向上(k/L)	%	基準値	1%向上	108.2%	2%向上	94.0%	3%向上	93.2%
		燃費	9.0	9.1	9.8	9.1	8.6	9.2	8.6
		kg-CO ₂	5,804.7	5,746.6	4,756.1	5,688.6	5,981.9	5,630.5	7,594.7
	灯油の消費量の削減(L)	%	基準値	1%削減	105.7%	2%削減	0.8%	3%削減	0.5%
		消費量	18,448.0	18,263.5	19,300.0	18,079.0	143.0	17,894.6	90.0
		kg-CO ₂	45,971.1	45,511.4	48,094.2	45,051.7	356.3	44,592.0	224.3
二酸化炭素排出量の削減	%	基準値	1%削減	97.6%	2%削減	64.7%	3%削減	60.8%	
	kg-CO ₂	153,185.9	151,654.1	148,059.0	150,122.2	97,111.4	148,590.4	90,384.1	
建設現場での電気使用量及び重機車両の燃料使用量を減し、CO ₂ の排出量を削減します。(工事グループ)	電力消費量の削減(kwh)	%	基準値	1%削減	130.3%	2%削減	95.0%	3%削減	144.3%
		消費量	50,080.0	49,579.2	64,623.0	49,078.4	46,608.7	48,577.6	70,103.8
		kg-CO ₂	25,490.7	25,235.8	32,893.1	24,980.9	23,723.8	24,726.0	35,682.8
	ガソリン消費量の削減(L)	%	基準値	1%削減	145.1%	2%削減	72.6%	3%削減	459.0%
		消費量	1,038.7	1,028.3	1,491.6	1,017.9	739.0	1,007.5	4,624.0
		kg-CO ₂	2,411.4	2,387.3	3,463.0	2,363.2	1,715.7	2,339.1	10,735.4
	軽油消費量の削減(L)	%	基準値	1%削減	181.4%	2%削減	293.8%	3%削減	375.4%
		消費量	111,176.2	110,064.4	199,665.6	108,952.6	320,088.0	107,840.9	404,870.0
		kg-CO ₂	287,526.0	284,650.8	516,379.2	281,775.5	827,818.0	278,900.2	1,047,082.9
	灯油の消費量の削減(L)	%	基準値	1%削減	94.8%	2%削減	212.5%	3%削減	321.7%
		消費量	140.7	139.3	132.0	137.9	293.0	136.4	439.0
		kg-CO ₂	350.5	347.0	328.9	343.5	730.1	340.0	1,094.0
	二酸化炭素排出量の削減	%	基準値	1%削減	176.9%	2%削減	276.0%	3%削減	357.4%
		kg-CO ₂	315,778.7	312,620.9	553,064.2	309,463.2	853,987.7	306,305.4	1,094,595.0
	事業全体	二酸化炭素排出量の削減	%	基準値	1%削減	151%	2%削減	207%	3%削減
kg-CO ₂			468,964.7	464,275.0	701,123.2	459,585.4	951,099.1	454,895.7	1,184,979.1

方針	取組項目	年度	基準年	2017年		2018年		2019年	
		単位	過去3か年実績平均	目標	実績	目標	実績	目標	実績
事業所の廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより建設リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。	分別及びリサイクルの推進(kg) (総務グループ)	%	基準値	1%削減	83.1%	2%削減	72.6%	3%削減	85.7%
		排出量	2,837.5	2,809.1	2,333.9	2,780.7	2,018.0	2,752.3	2,358.8
建設現場の廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより建設リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。	分別及びリサイクルの推進(%) (工事グループ)	%	基準値	維持	100.5%	維持	89.2%	維持	99.2%
		リサイクル率	90.0	90.0	90.5	90.0	80.3	90.0	89.2
事業所から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。	事業所利用水の節水(m) (総務グループ)	%	基準値	1%削減	104.8%	2%削減	83.8%	3%削減	74.2%
		使用量	1,249.7	1,237.2	1,296.0	1,224.7	1,026.0	1,212.2	899.0
建設現場から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。	現場利用水の節水(m) (工事グループ)	%	基準値	1%削減	339.5%	2%削減	836.1%	3%削減	1665.8%
		使用量	905.4	896.3	3,042.8	887.3	7,418.7	878.2	14,628.9
施工で使用する建材の化学物質の使用に際しては適正な管理に努めます。	化学物質の適正な管理	目標を設定せず適正管理に努める					○		○
環境に配慮した施工を推進します。	環境配慮施工の拡大	%	基準値	維持	100.0%	維持	94.0%	維持	95.6%
		推進率	97.0	97.0	97.0	97.0	91.2	97.0	92.8
グリーン購入の拡大を推進します。	グリーン商品の積極的購入	%	基準値	維持	97.6%	維持	99.5%	維持	99.5%
		購入率	80.0	80.0	78.1	80.0	79.6	80.0	79.6
環境活動の社会貢献を推進します。	美知メサ活動に参加する	回	基準値	維持	100.0%	維持	100.0%	維持	100.0%
		参加回数	12	12	12	12	12	12	12

目標の説明・補足事項

1. 購入電力の排出係数は、0.509kg-CO2/kwh(2016年度関西電力排出係数)とする。
2. 廃棄物排出量は、総務グループは排出量、工事グループはリサイクル率で管理する。
3. 利用水量は、事業所、現場における利用水量の削減について実施する。
4. 建設現場での環境配慮施工を拡大する。
5. グリーン購入は、当面事務用品について取り組む。
6. 上記の目標の他、現場の環境及び品質安全向上のために、5S活動(整理・整頓・清掃)に取り組む。

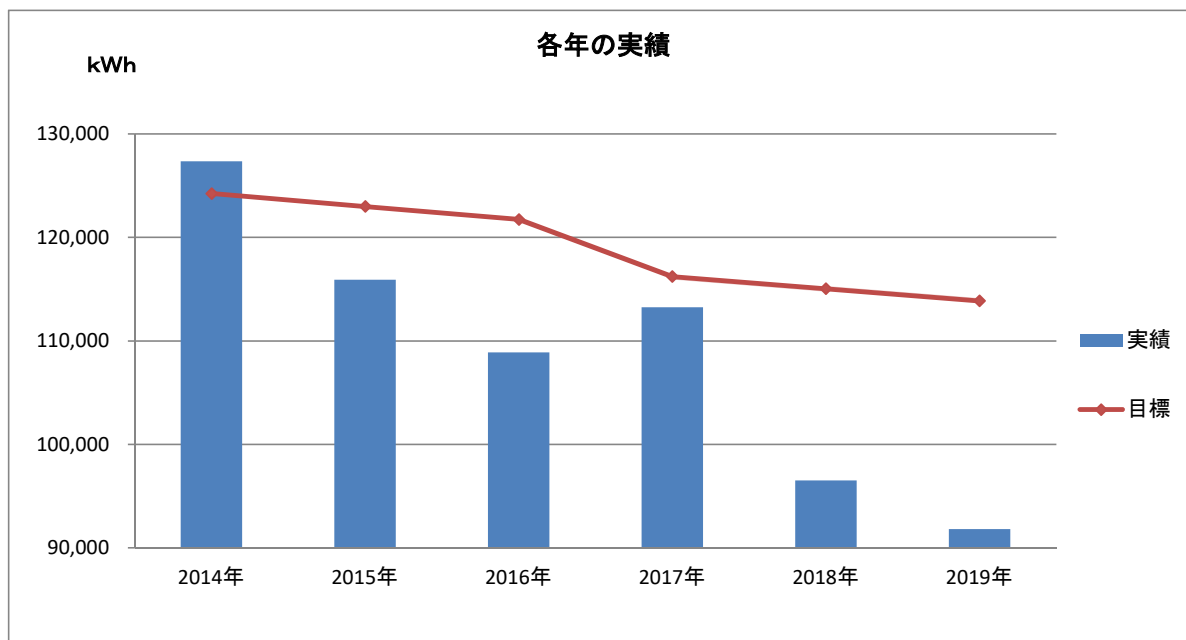
・取組項目一覧

- 1-1) 電力消費量の削減 総務グループ・工事グループ
 - 1-2) ガソリン消費量の削減 総務グループ・工事グループ
 - 1-3) 軽油消費量の削減 総務グループ・工事グループ
 - 1-4) 灯油消費量の削減 総務グループ・工事グループ
 - 1-5) 分別及びリサイクルノ推進 総務グループ・工事グループ
 - 1-6) 事業所利用水ノ削減 総務グループ・工事グループ
 - 1-7) 化学物質の適正な管理 工事グループ
 - 1-8) 環境配慮施工の拡大 工事グループ
 - 1-9) グリーン商品の積極的購入 総務グループ
 - 1-10) 美知メサ活動に参加
 - 1-11) 二酸化炭素排出量の削減 総務グループ・工事グループ・事業全体
- 取組内容の紹介(写真添付)

4. 環境目標とその実績(取組項目別) 5. 環境活動計画 6. 取組結果とその評価、次年度取組内容

1-1) 電力消費量の削減

【総務グループ】



年度	実施年度					
	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年※の1%削減	67期(2018年) 基準年※の2%削減	68期(2019年) 基準年※の3%削減
目標値	124,246.0	122,990.9	121,735.9	116,206.2	115,032.4	113,858.6
実績値	127,351.0	115,890.0	108,889.0	113,250.0	96,508.0	91,808.0
前年度実績比	-	91.0%	94.0%	104.0%	85.2%	95.1%
目標実績比	102.5%	94.2%	89.4%	97.5%	83.9%	80.6%

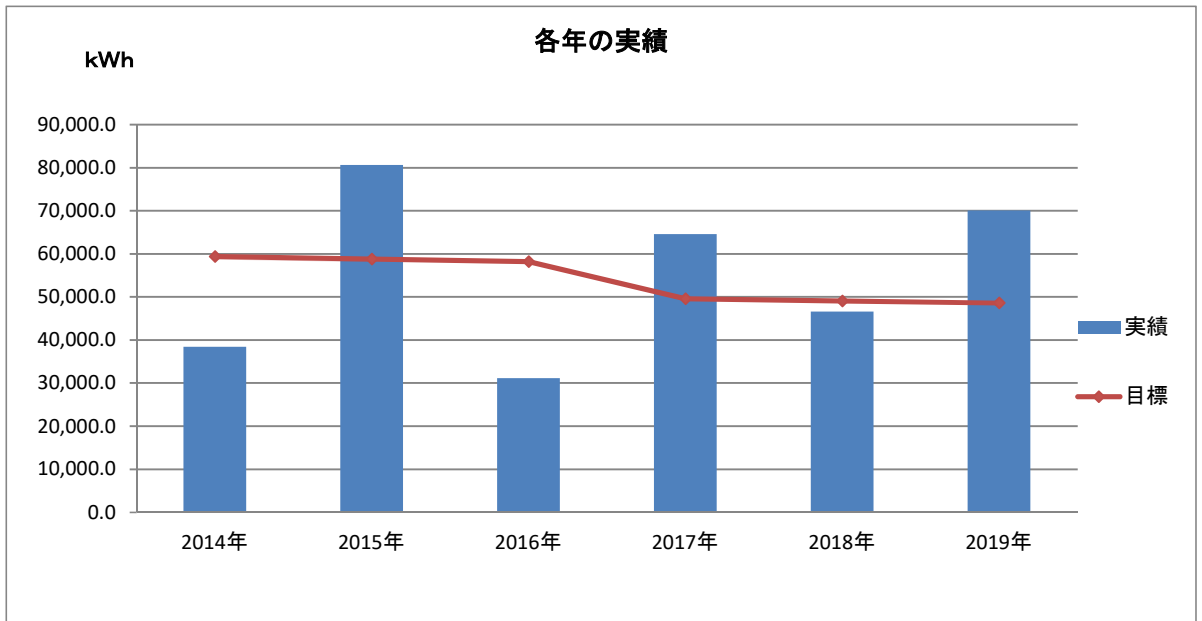
※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 ○
①空調の温度管理(夏季28℃±1℃)	年間総量も10万kw台を下回り十分な結果を伴った。空調の稼働しない時期で削減幅が大きく目立ったことが要因。空調稼働時期も使用方法で局所使用など環境配慮に慣れてきた意識面の効果も大きい。
②空調フィルターの掃除	
③高効率照明の計画的採用	

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない(改善の必要がある)

1-1) 電力消費量の削減

【工事グループ】



年度	実施年度					
	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年※の1%削減	67期(2018年) 基準年※の2%削減	68期(2019年) 基準年※の3%削減
目標値	59,400.0	58,763.9	58,164.3	49,579.2	49,078.4	48,577.6
実績値	38,411.0	80,673.0	31,156.1	64,623.0	46,608.7	70,103.8
前年度実績比	-	210.0%	38.6%	207.4%	72.1%	150.4%
目標実績比	64.7%	137.3%	53.6%	130.3%	95.0%	144.3%
事業規模単位:百万円	1,953	2,874	2,758	3,148	3,336	4,330
売上高換算値	49,726.5	70,970.2	28,561.6	51,902.3	35,324.4	40,934.4
前年度実績比	-	142.7%	40.2%	181.7%	68.1%	115.9%

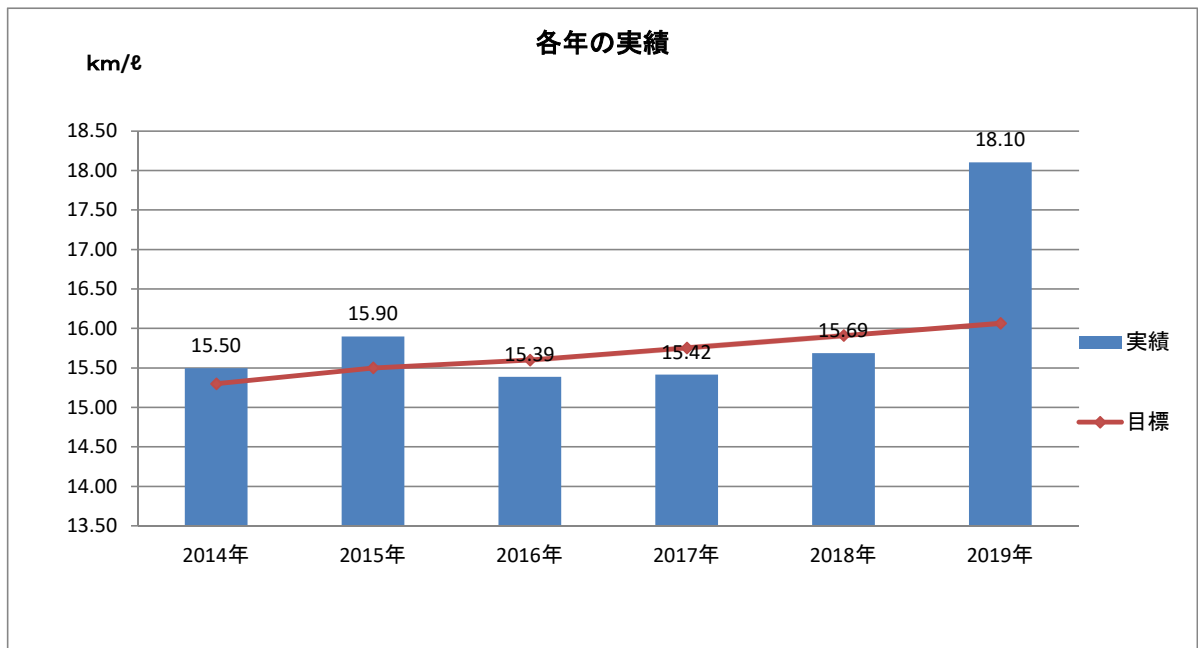
※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 △
①不用時の消灯 ②機械設備・OA機器などのスイッチオフ ③空調の温度管理(夏季28℃±1℃)	仮設動力電気での消費が多く、目標値を大幅に超えてしまった。工事内容によって大きく変動していますが、節電意識を持って取り組みは出来ている。

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない(改善の必要がある)

1-2) ガソリン消費量の削減

【総務グループ】



○ガソリン消費量と燃費

		実施年度					
年度		63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年※の1%向上	67期(2018年) 基準年※の2%向上	68期(2019年) 基準年※の3%向上
燃費	目標値	15.3	15.5	15.6	15.8	15.9	16.1
	実績値	15.5	15.9	15.4	15.4	15.7	18.1
	前年度実績比	-	102.6%	96.8%	100.2%	101.8%	115.4%
	目標実績比	101.3%	102.6%	98.7%	97.9%	98.6%	112.7%
消費量	実績値	18,411	18,047	17,379	16,180	17,940	15,435
	前年度実績比	-	98.0%	96.3%	93.1%	110.9%	86.0%

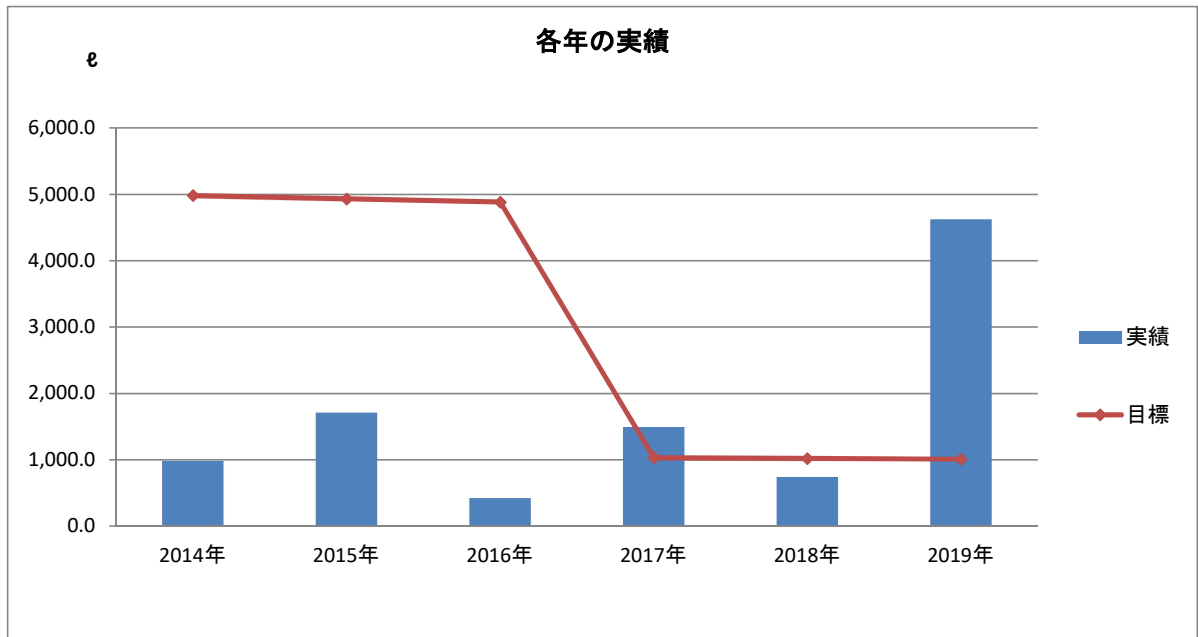
※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 ○
①更新車両の最低燃費車を採用 ②タイヤの空気圧の測定 ③啓蒙・教育活動	車両用燃料は事業活動の増減や工事現場の距離で影響するも、長距離運転者のハイブリッド車貸与など運用方法が功を奏して良好な結果を支えた。

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない（改善の必要がある）

1-2) ガソリン消費量の削減

【工事グループ】



年度	実施年度					
	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年※の1%削減	67期(2018年) 基準年※の2%削減	68期(2019年) 基準年※の3%削減
目標値	4,980.0	4,930.0	4,882.0	1,028.3	1,017.9	1,007.5
実績値	983.0	1,710.0	423.0	1,491.6	739.0	4,624.0
前年度実績比	-	174.0%	24.7%	352.6%	49.5%	625.7%
事業規模単位:百万円	1,953	2,874	2,758	3,148	3,336	4,330
売上高換算値	1,272.6	1,504.3	387.8	1,198.0	560.1	2,700.0
前年度実績比	-	118.2%	25.8%	308.9%	46.8%	482.1%

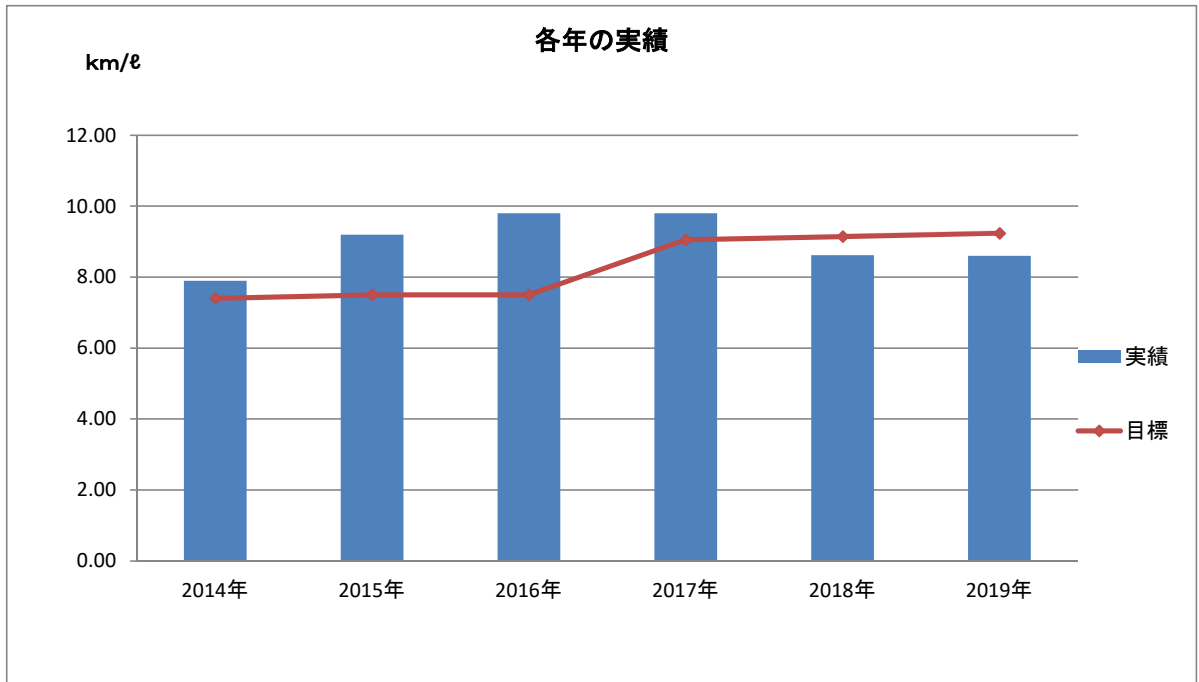
※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 ×
① 不用積載物の有無	○ : アイドリングストップや低燃費機器の採用を積極的に取り組んだが作業所内での移動用燃料としての使用が増加し計画値を超える結果となった。
② 暖機運転・アイドリングストップ	
③ 環境に配慮した稼働	

○ : 取り組まれていて問題はない。△ : 取組に問題の可能性がある。× : できていない (改善の必要がある)

1-3) 軽油消費量の削減

【総務グループ】



○軽油消費量と燃費

		実施年度					
年度		63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年※の1%向上	67期(2018年) 基準年※の2%向上	68期(2019年) 基準年※の3%向上
燃費	目標値	7.4	7.5	7.5	9.1	9.1	9.2
	実績値	7.9	9.2	9.8	9.8	8.6	8.6
	前年度実績比	-	116.5%	106.5%	100.0%	88.0%	99.8%
	目標実績比	106.8%	122.7%	130.7%	108.2%	94.3%	93.2%
消費量	実績値	2,361	2,742	1,630	1,839	2,313	2,937
	前年度実績比	-	116.1%	59.5%	112.8%	125.8%	127.0%

※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

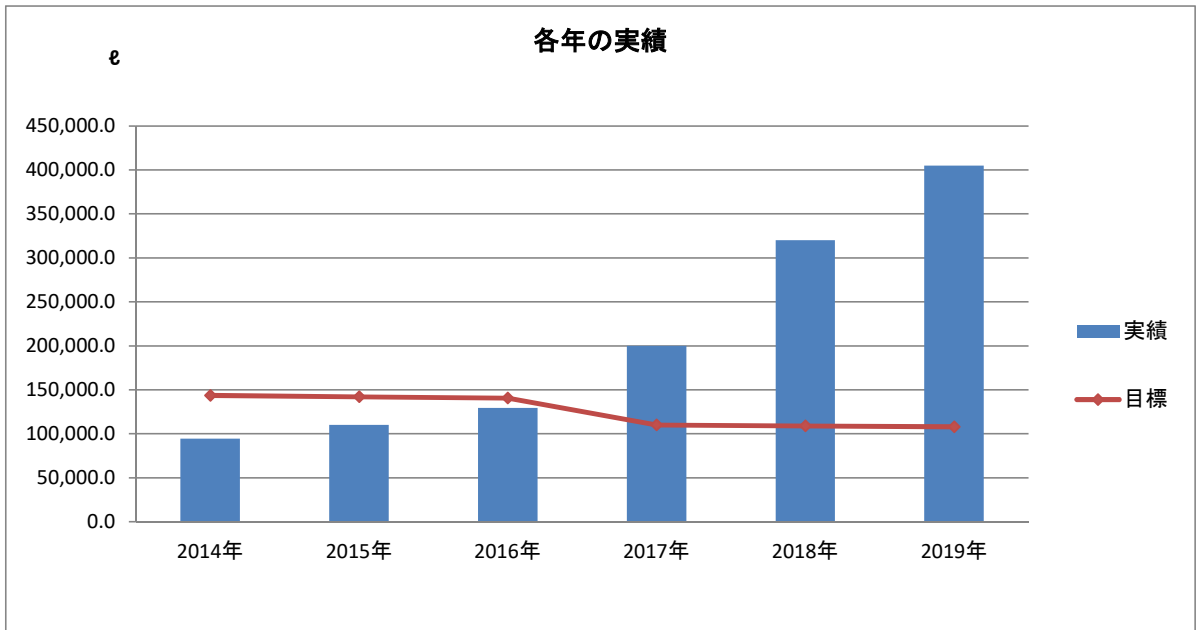
環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 △
①使用車両の最適化 ②資材回送ルート最適化 ③フォークリフト積み替え距離の適正化	ディーゼル車は燃費悪化の傾向が見られ、旧式車両の更新計画を前倒しなど将来対応する必要性を残した。

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない（改善の必要がある）

1-3) 軽油消費量の削減

【工事グループ】

*工事によって使用度に大小がでますので、目標値は毎月一定としています。



年度	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年※の1%削減	67期(2018年) 基準年※の2%削減	68期(2019年) 基準年※の3%削減
目標値	143,520.0	142,088.2	140,638.4	110,064.4	108,952.6	107,840.9
実績値	94,432.0	109,751.0	129,345.5	199,665.6	320,088.0	404,870.0
前年度実績比	-	116.2%	117.9%	154.4%	160.3%	126.5%
目標実績比	65.8%	77.2%	92.0%	181.4%	293.8%	375.4%
事業規模単位: 百万円	1,953	2,874	2,758	3,148	3,336	4,330
売上高換算値	122,250.7	96,550.8	118,574.5	160,362.5	242,592.7	236,407.9
前年度実績比	-	79.0%	122.8%	135.2%	151.3%	97.5%

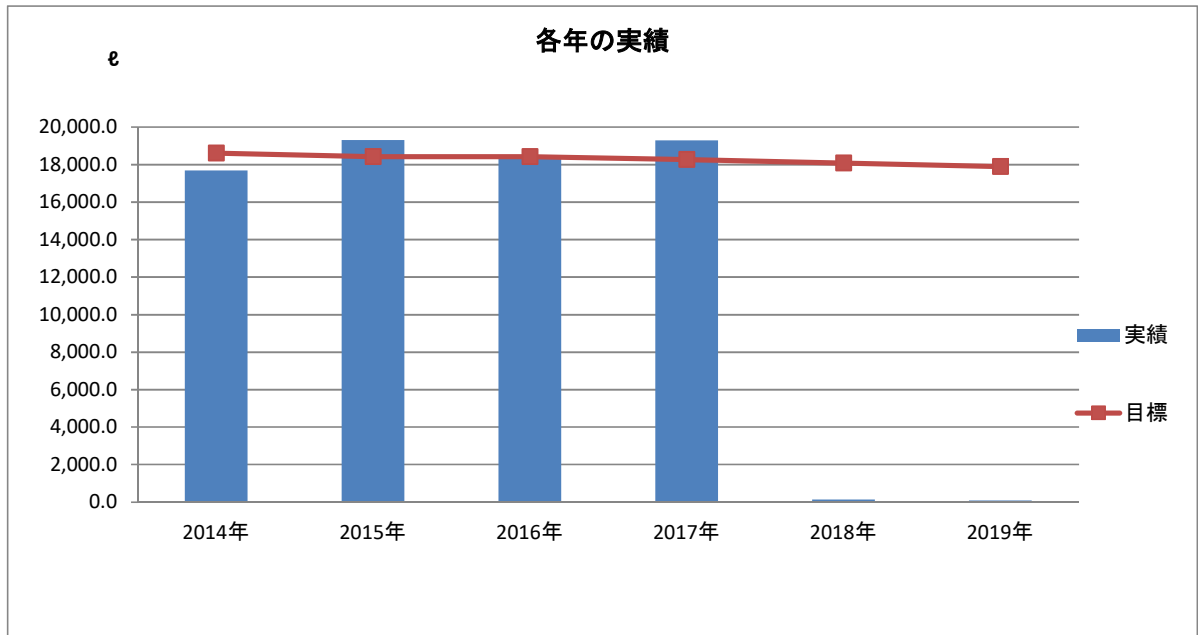
※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 ×
①不用積載物の有無	使用量が計画値を超える結果となった。解体工事が重なり、重機作業中心の工事が多くなったことが原因である。環境軽減重機の採用を引き続き使用して軽減に努める。
②暖機運転・アイドリングストップ	
③環境に配慮した稼働	

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない（改善の必要がある）

1-4) 灯油消費量の削減

【総務グループ】



年度	実施年度					
	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年※の1%削減	67期(2018年) 基準年※の2%削減	68期(2019年) 基準年※の3%削減
目標値	18,610.0	18,423.0	18,423.0	18,263.5	18,079.0	17,894.6
実績値	17,681.0	19,306.0	18,357.0	19,300.0	143.0	90.0
前年度実績比	-	109.2%	95.1%	105.1%	0.7%	62.9%
目標実績比	95.0%	104.8%	99.6%	105.7%	0.8%	0.5%

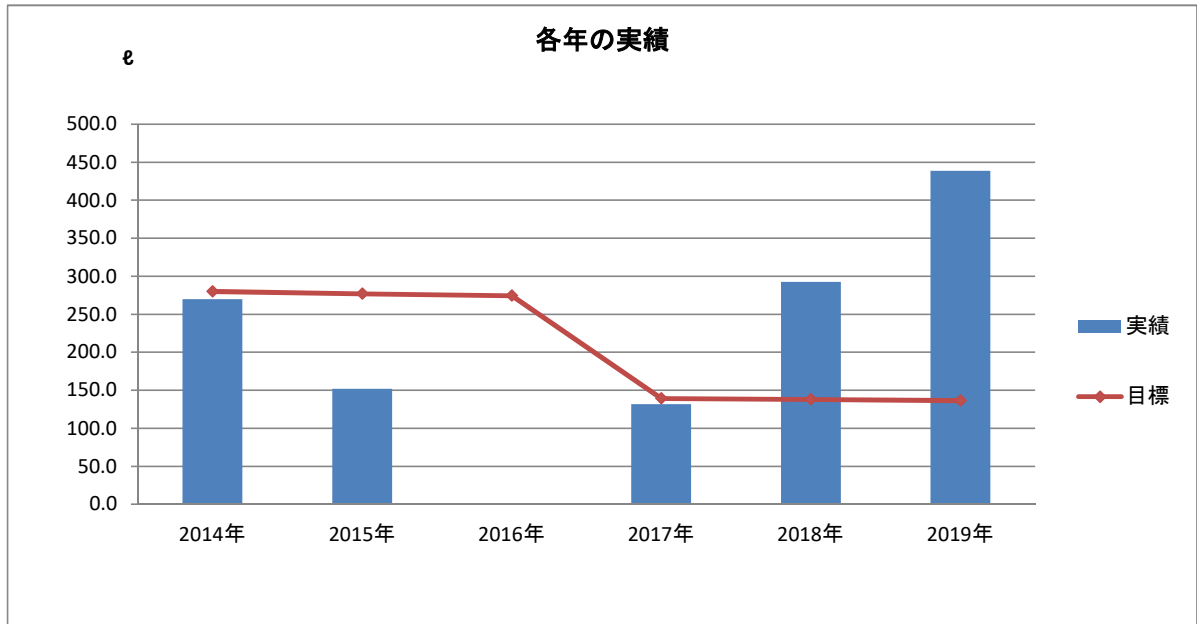
※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者 ①空調の温度管理(夏季28℃±1℃冬季20℃±1℃) ②空調の必要が無い時はスイッチオフ	判定 ○ 空調システムの更新により計画値から大幅に使用量が減る結果となった。

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない(改善の必要がある)

1-4) 灯油消費量の削減

【工事グループ】



年度	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年※の1%削減	67期(2018年) 基準年※の2%削減	68期(2019年) 基準年※の3%削減
目標値	280.0	277.0	274.4	139.3	137.9	136.4
実績値	270.0	152.0	0.0	132.0	293.0	439.0
前年度実績比	-	56.3%	0.0%	0.0%	45.1%	66.7%
目標実績比	96.4%	54.9%	0.0%	94.8%	212.5%	321.7%
事業規模単位:百万円	1,953	2,874	2,758	3,148	3,336	4,330
売上高換算値	349.5	133.7	0.0	106.0	222.1	256.3
前年度実績比	-	38.3%	0.0%	-	209.5%	115.4%

※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

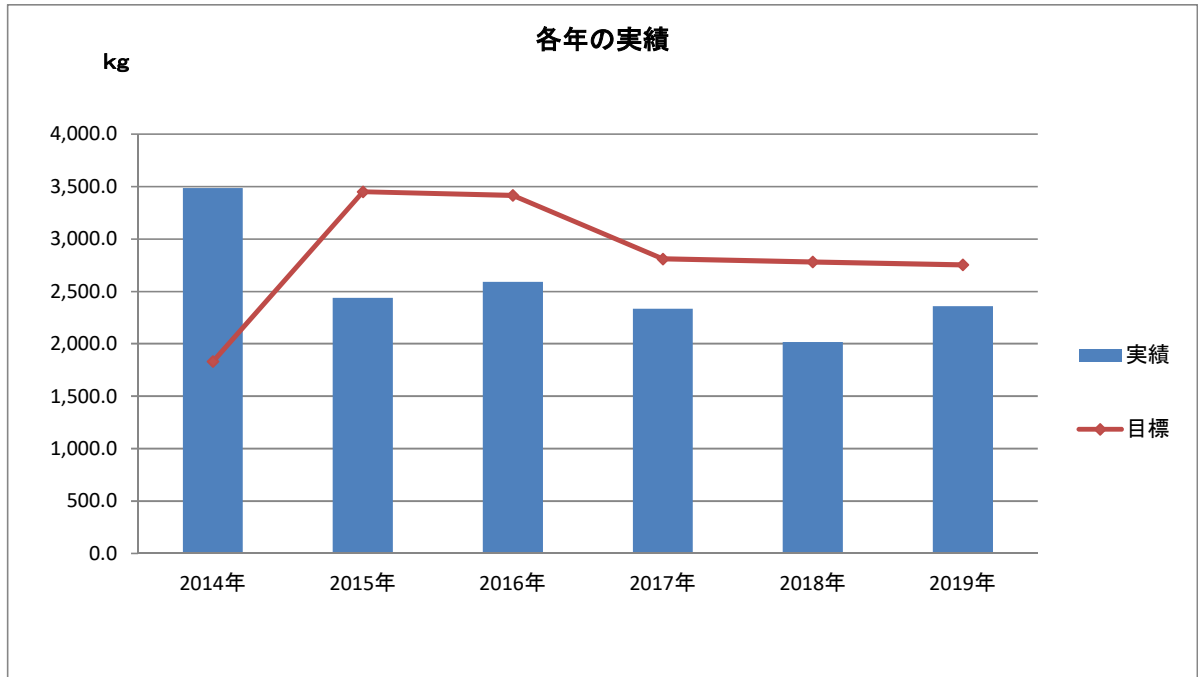
環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者 ①空調の温度管理(夏季28℃±1℃冬季20℃±1℃) ②空調の必要が無い時はスイッチオフ	判定 × 使用量は昨年度同様、山間部での暖房用にライフラインの関係で灯油に頼る結果となり、増加となった。

年度	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年)	67期(2018年)	68期(2019年)
実施年度						

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない(改善の必要がある)

1-5) 分別及びリサイクルの推進

【総務グループ】



年度	実施年度					
	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年※の1%削減	67期(2018年) 基準年※の2%削減	68期(2019年) 基準年※の3%削減
目標値	1,830.0	3,450.1	3,415.2	2,809.1	2,780.7	2,752.3
実績値	3,484.9	2,437.5	2,589.9	2,333.9	2,018.0	2,358.8
前年度実績比	-	69.9%	106.3%	90.1%	86.5%	116.9%
目標実績比	190.4%	70.7%	75.8%	83.1%	72.6%	85.7%

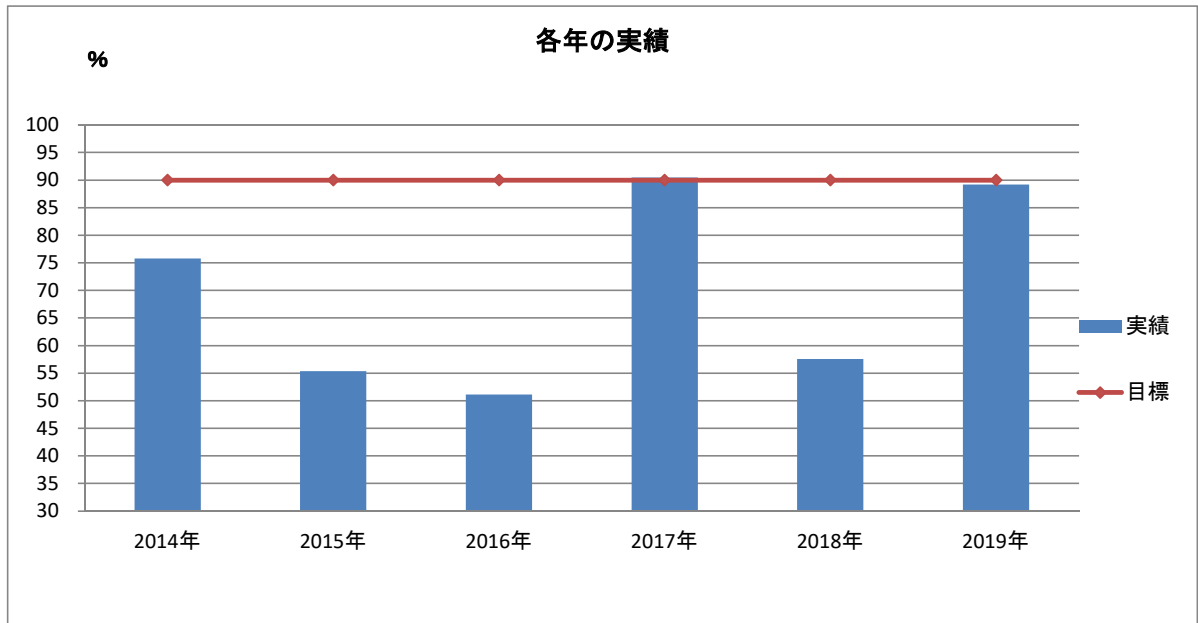
※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 ○
①資源ごみをリサイクルされる回収業者へ出す ②裏紙利用促進とシュレッダーごみの再資源化 ③電子データで書類の減少	本年も年末清掃でのごみ量少なかった。リサイクル率も向上傾向であり総量では増加傾向であるが、可燃不燃ごみは順調に推移を示した期間であった。

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性はある。×：できていない（改善の必要がある）

1-5) 分別及びリサイクルの推進

【工事グループ】



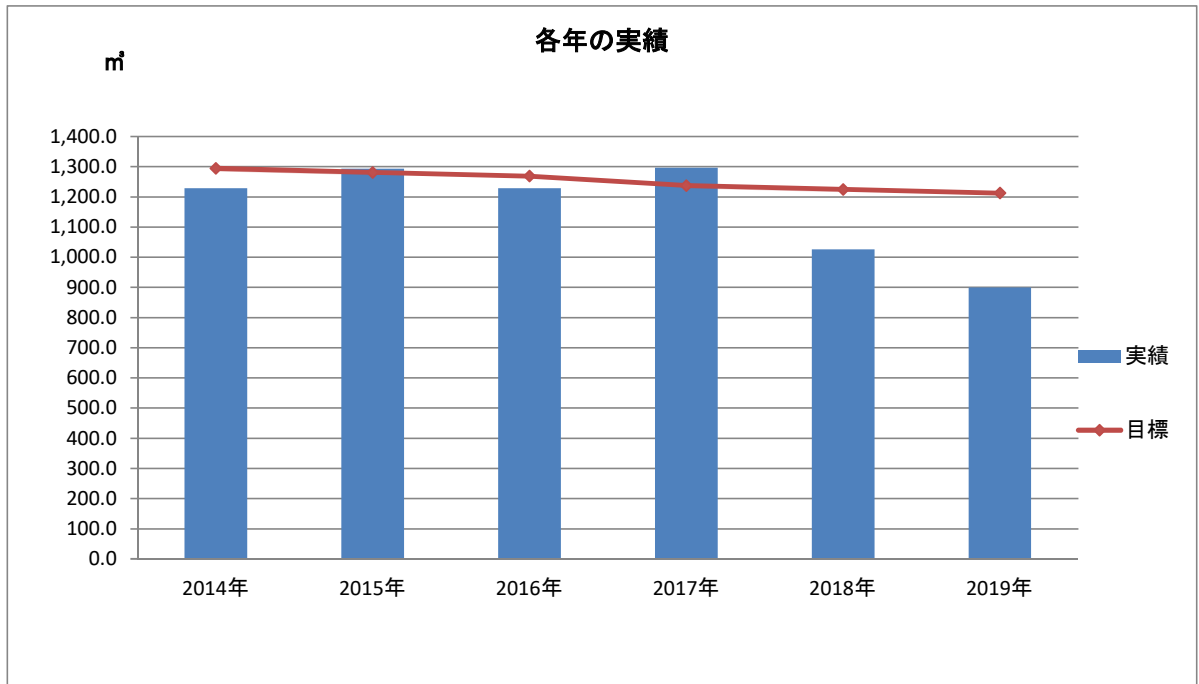
年度	実施年度					
	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 90%を維持	67期(2018年) 90%を維持	68期(2019年) 90%を維持
目標値(%)	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値(%)	75.8	55.4	51.2	90.5	57.6	89.2
前年度実績比	-	73.1%	92.3%	176.9%	63.7%	154.9%
目標実績比	84.2%	61.6%	56.8%	100.6%	64.0%	99.2%

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 △
① 使用済みコピー用紙を再利用する ② 無駄な資機材を購入しない ③ 建設廃棄物を分別し、リユース・リサイクルを徹底する	工事内容により達成率が大きく変動するが各作業所とも廃棄物の削減に向け取り組んでいる。

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない（改善の必要がある）

1-6) 事業所利用水の削減

【総務グループ】



年度	実施年度					
	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年※の1%削減	67期(2018年) 基準年※の2%削減	68期(2019年) 基準年※の3%削減
目標値	1,294.0	1,281.0	1,268.8	1,237.2	1,224.7	1,212.2
実績値	1,228.0	1,293.0	1,228.0	1,296.0	1,026.0	899.0
前年度実績比	-	105.3%	95.0%	105.5%	79.2%	87.6%
目標実績比	94.9%	100.9%	96.8%	104.8%	83.8%	74.2%

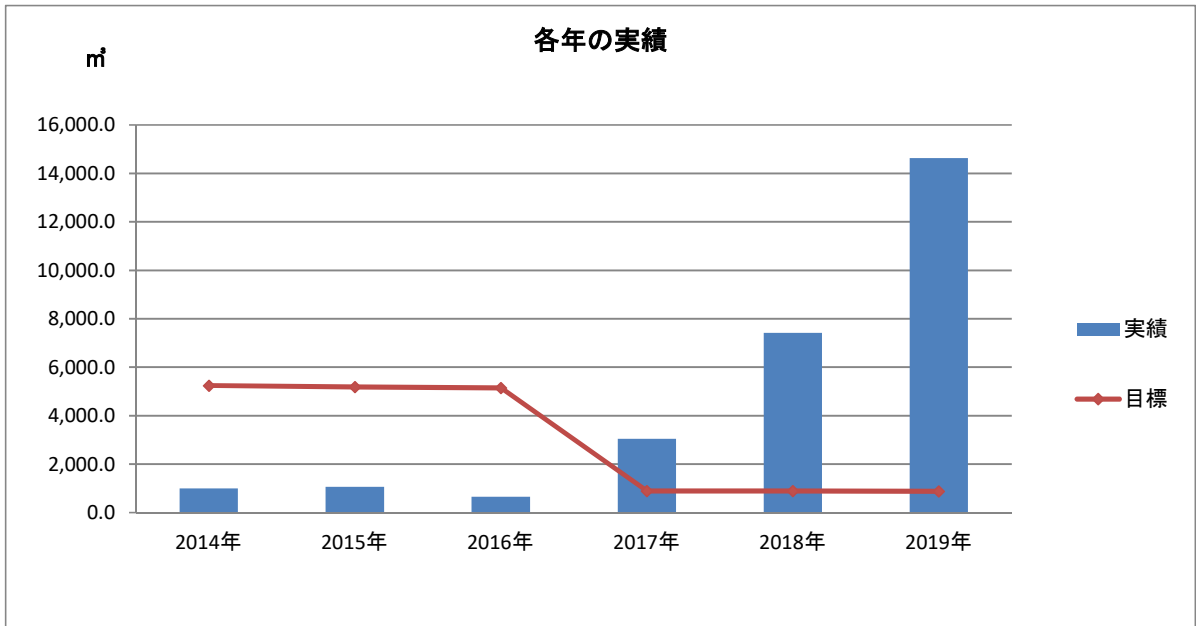
※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者 ①清掃前の貯水槽利用調整 ②植栽散水の効率的実施	判定 ○ 節水意識は維持できているが、設備配管の設置年数から漏水リスクもあり、管理面での対応も求められる。

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない（改善の必要がある）

1-6) 事業所利用水の削減

【工事グループ】



年度	実施年度					
	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年※の1%削減	67期(2018年) 基準年※の2%削減	68期(2019年) 基準年※の3%削減
目標値	5,245.0	5,192.0	5,140.0	896.3	887.3	878.2
実績値	994.3	1,070.2	651.6	3,042.8	7,418.7	14,628.9
前年度実績比	-	107.6%	60.9%	467.0%	243.8%	197.2%
目標実績比	19.0%	20.6%	12.7%	339.5%	836.1%	1665.8%
事業規模単位:百万円	1,953	2,874	2,758	3,148	3,336	4,330
売上高換算値	1,287.2	941.5	597.3	2,443.8	5,622.6	8,542.0
前年度実績比	-	73.1%	63.4%	409.1%	230.1%	151.9%

※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 ×
①洗車の水使用量を減らす	節水への取り組みが浸透しているが通年で解体工事が多くあり、洗車施設の設置で目標を大きく達成できなかった。

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない（改善の必要がある）

1-7) 化学物質の適正な管理

【工事グループ】

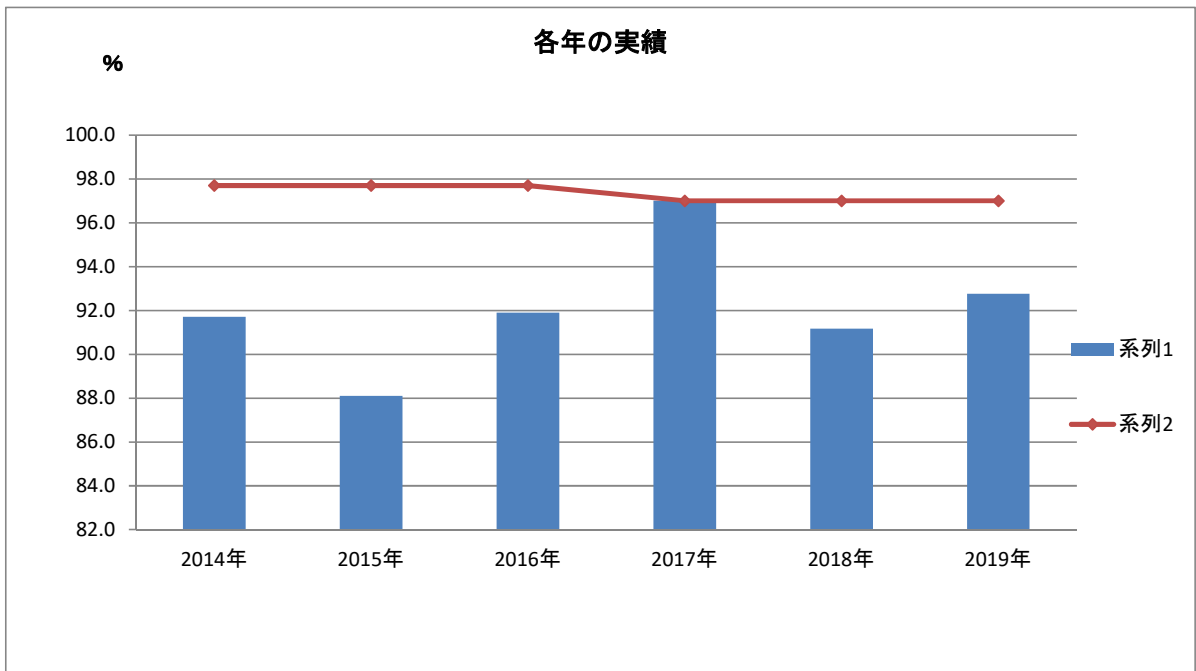
						実施年度
年度	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年)	67期(2018年)	68期(2019年)
目標を設定せず適正管理に努める						

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 ○
①保管容器の整理整頓	適正な管理を継続します。
②SDSの整理(使用量の把握100%)	

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない(改善の必要がある)

1-8) 環境配慮施工の拡大

【工事グループ】



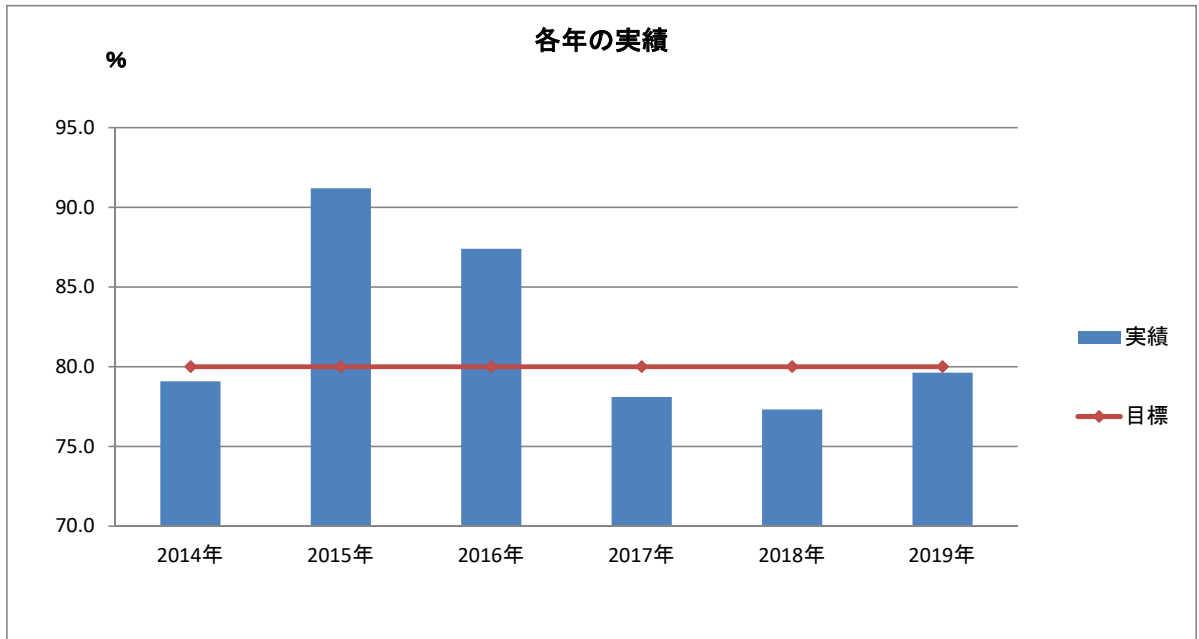
	実施年度					
年度	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 97%	67期(2018年) 97%を維持	68期(2019年) 97%を維持
目標値	97.7	97.7	97.7	97.0	97.0	97.0
実績値	91.7	88.1	91.9	97.0	91.2	92.8
前年度実績比	-	96.1%	104.3%	105.5%	94.0%	101.7%
目標実績比	93.9%	90.2%	94.1%	100.0%	94.0%	95.6%

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者 ①周辺の環境や生き物の保全活動等に対し、事業の都度清掃等を行い地域環境への配慮を行う	判定 △ 取組みは出来ている。目標は達成できなかったが、昨年よりは達成率が上がった。

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない（改善の必要がある）

1-9) グリーン商品の積極的購入

【総務グループ】



						実施年度
年度	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 80%に拡大	67期(2018年) 80%を維持	68期(2019年) 80%を維持
目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
実績値	79.1	91.2	87.4	78.1	77.3	79.6
前年度実績比	-	115.3%	95.8%	89.4%	99.0%	103.0%
目標実績比	98.9%	114.0%	109.3%	97.6%	96.7%	99.5%

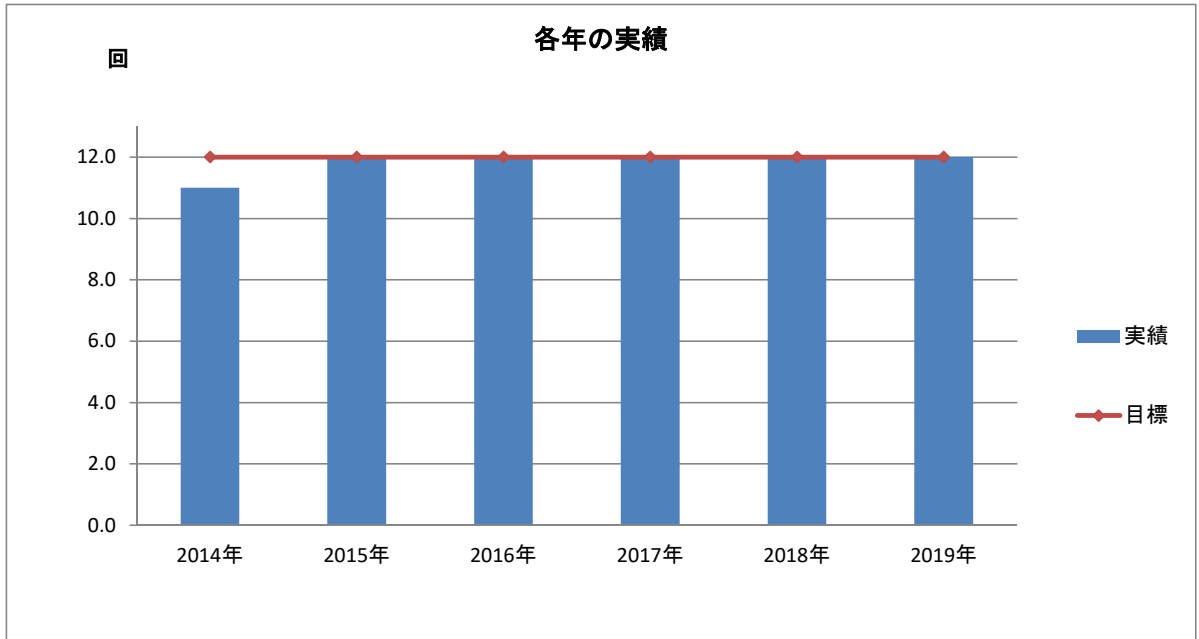
環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 △
①文房具をグリーン商品から選定 ②同種、同価格のものはグリーン商品を優先購入	グリーン購入品が存在する品目については、グリーン購入が定着している。

*グリーン購入は、当面事務用品について取組む

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない（改善の必要がある）

1-10) 美知メセナ活動に参加

【営業グループ】



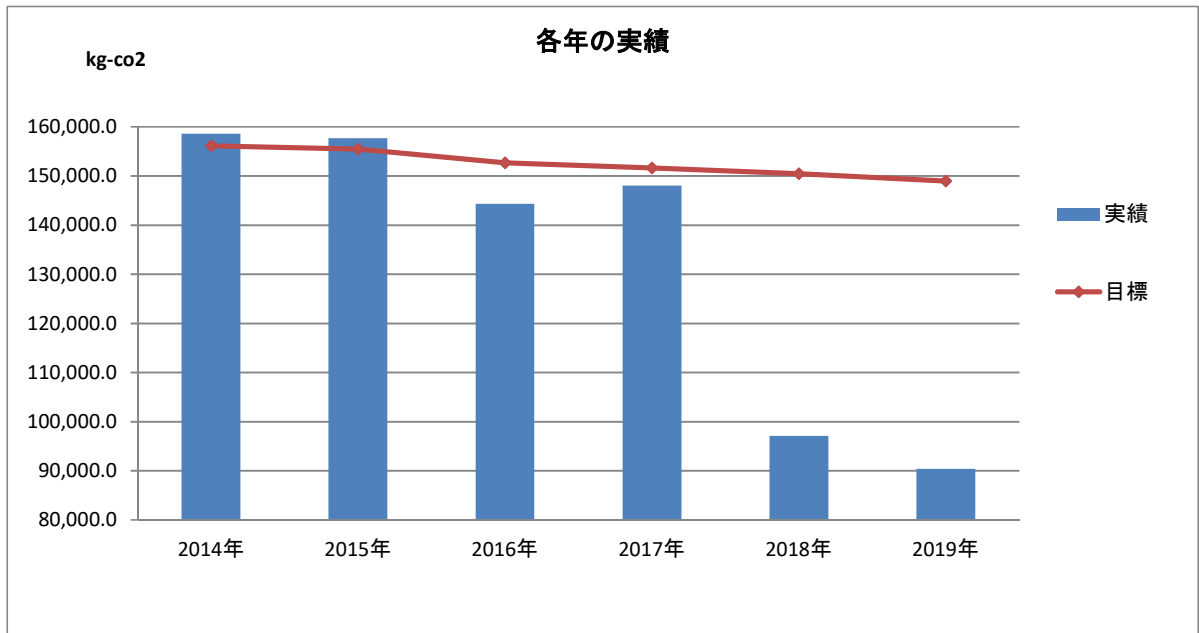
年度	実施年度					
	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 12回/年以上参加	67期(2018年) 維持	68期(2019年) 維持
目標値	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
実績値	11.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
前年度実績比	-	109.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
目標実績比	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

環境活動計画の内容	評価(○・△・×)
責任部門・担当者	判定 ○
①本社周辺の美化活動日に合わせて美知メセナ活動を行う	社員にも定着し、地域からの評価や激励を励みに継続する。

○：取り組まれていて問題はない。△：取組に問題の可能性がある。×：できていない（改善の必要がある）

1-11) 二酸化炭素排出量の削減

【総務グループ】



3

年度	実施年度					
	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年の1%削減	67期(2018年) 基準年の2%削減	68期(2019年) 基準年の3%削減
目標値	156,110.5	155,468.6	152,646.9	151,654.1	150,481.0	148,945.5
実績値	158,623.3	157,710.1	144,322.7	148,059.0	97,111.4	90,384.1
前年度実績比	-	99.4%	91.5%	102.6%	65.6%	93.1%
目標実績比	101.6%	101.4%	94.5%	97.6%	64.5%	60.7%

※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

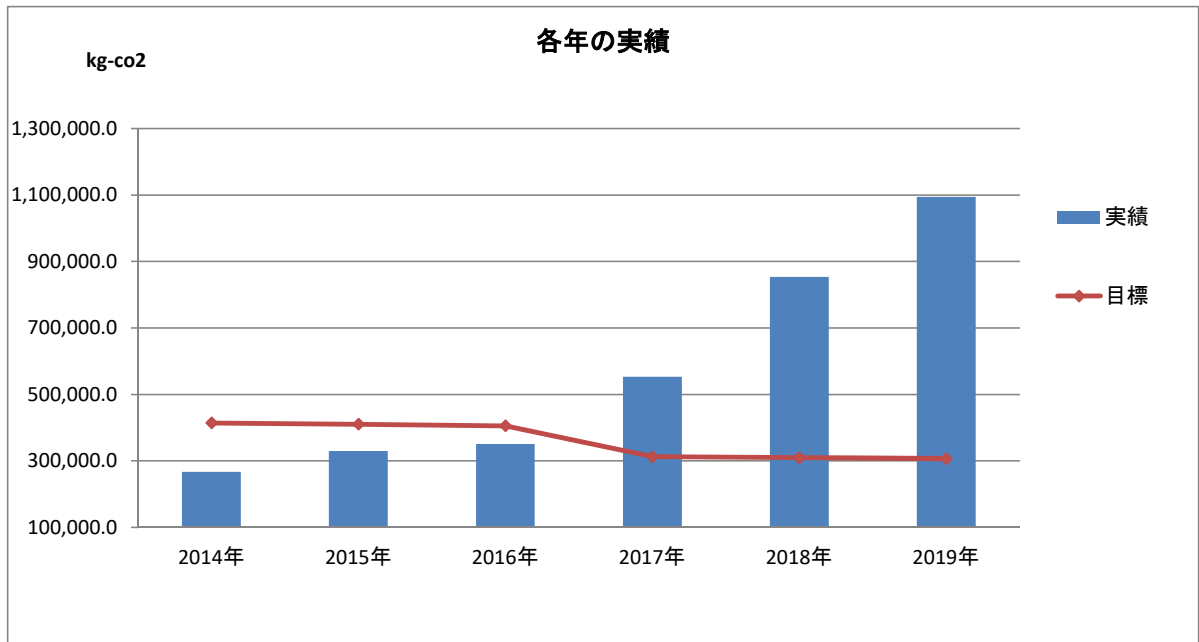
次年度の取組内容
削減量としては目標比約6.9%削減となりました。一昨年の空調システム更新により灯油は、ほぼ使用しなくなるが、部分暖房等は効率の良い使用を心掛けます。 ガソリン燃費において、エコドライブへの取組は各員に浸透している。エコカーへの入替えを順次行っていきます。

目標の説明や補足事項

- ①購入電力の排出係数は、0.509kg-CO₂/kwhとする(2015年度関西電力公表実排出係数値)
- ②上記の目標のほか、作業現場の環境及び品質安全向上ために笹川組5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、スピード)に取り組む

1-11) 二酸化炭素排出量の削減

【工事グループ】



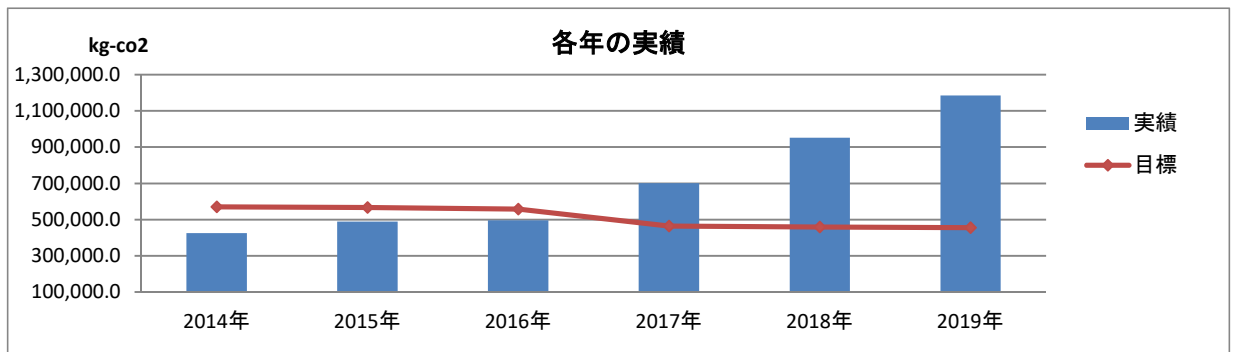
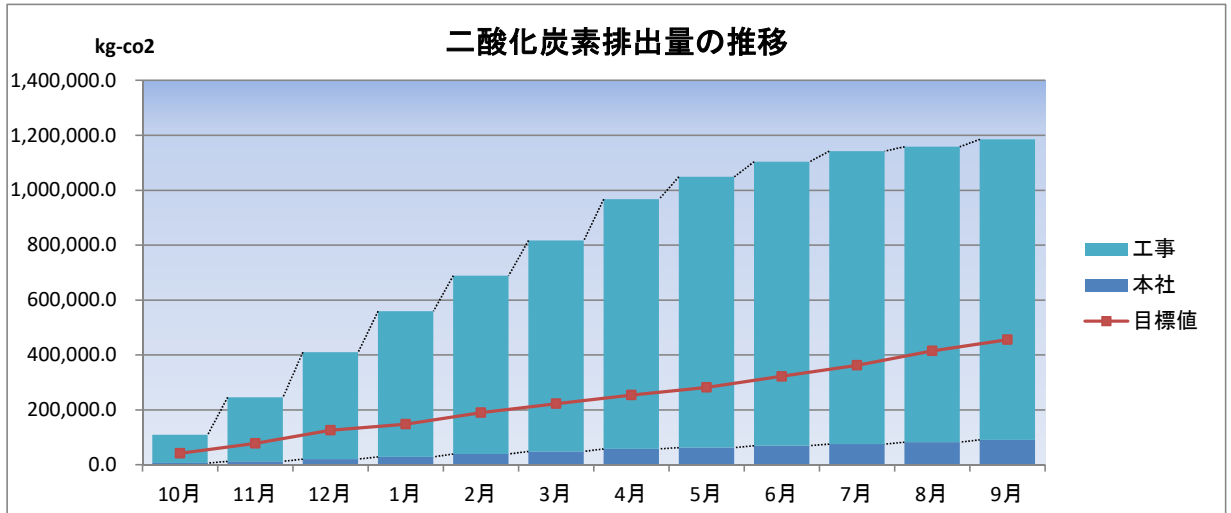
年度	実施年度					
	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年の1%削減	67期(2018年) 基準年の2%削減	68期(2019年) 基準年の3%削減
目標値	414,084.3	410,340.9	405,345.6	312,620.9	309,463.1	306,305.3
実績値	266,997.0	330,381.0	350,951.4	553,064.2	853,987.7	1,094,595.0
前年度実績比	-	123.7%	106.2%	157.6%	154.4%	128.2%
目標実績比	64.5%	80.5%	86.6%	176.9%	276.0%	357.4%
事業規模単位:百万円	1,953	2,874	2,758	3,148	3,336	4,330
売上高換算値	345,651.5	290,644.8	321,726.7	444,196.5	647,231.9	639,145.8
前年度実績比	-	84.1%	110.7%	138.1%	145.7%	98.8%

※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

次年度の取組内容
<p>2017年度より重機稼働量が軽油使用量に大きく起因し、CO2排出量の増加は避けられないが、機種、工法の検討を行い環境負荷軽減につながる比較検討を取り入れて行きます。結果的に負荷軽減にはつながるスキル向上をになっていく取り組みを継続する事とする。</p> <p>今年度も燃料、用水使用量は工事量及び工種に左右される結果となった。次年度も継続した排出量の削減に取り組んでいく事とする。</p>

1-11) 二酸化炭素排出量の削減

【事業全体】



	実施年度					
年度	63期(2014年)	64期(2015年)	65期(2016年)	66期(2017年) 基準年の1%削減	67期(2018年) 基準年の2%削減	68期(2019年) 基準年の3%削減
目標値	570,194.8	565,809.5	557,992.5	464,275.0	459,585.4	454,895.7
実績値	425,620.3	488,091.1	495,274.1	701,123.2	951,099.1	1,184,979.1
前年度実績比	-	114.7%	101.5%	141.6%	135.7%	124.6%
目標実績比	74.6%	86.3%	88.8%	151.0%	206.9%	260.5%
事業規模単位:百万円	1,953.0	2,874.0	2,758.0	3,148.0	3,336.0	4,330.0
売上高換算値	551,003.6	429,386.6	454,031.2	563,110.9	720,832.0	691,922.0
前年度実績比	-	77.9%	105.7%	124.0%	128.0%	96.0%

※2017年度からの基準年は2014年から2016年の3ヵ年平均値とします

次年度の取組内容

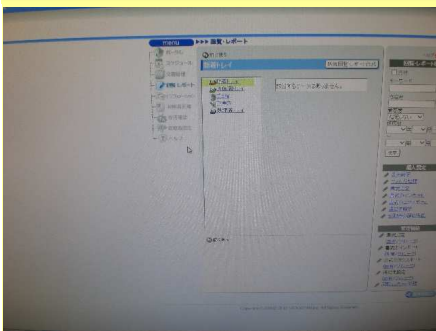
建設業としてCO2排出量の削減に向けた根本的な解決は難しいと所ではあるが継続して排出量削減に繋がる工法検討を行う。エコドライブの推進、エコ車への更新、省エネ機器への更新などは積極的に取り組んでいきたい。

取組内容の紹介



【玄関設置のモニターでの環境活動の紹介】

社員だけでなく当社に見えられたお客様やテナント様にも当社の取り組みを知っていただくよう、エコ活動に加え、安全、その他催し等の周知等、その時々に応じた情報を発信しています。



【環境測定の紹介】

解体工事中の振動・騒音測定記録。工事がある日は毎日、午前・午後の二回実施を行いました。住宅街での測定のため近隣への環境活動アピールにも一役かっています。

山間部での工事着手前には希少植物調査や河川の透

【グループウェアでの紙資料削減】

社員への一斉配布等、従来の紙書類では手間と後々のごみが増加するため、データ書類で確認できるものから、グループウェアの配信機能を用いて情報共有を図っています。作業時間の効率性にも一役買っています。



【美知メセナ活動への参加、ひまわり、パンジーの植苗】

本社周辺の清掃並びに、幹線道路の歩道を月に1回清掃しております。夏にはひまわりを植え、秋にはパンジーを植えて歩道と植栽の清掃だけでなく、緑化に努めています。地域の法人様の理解もあり、共同で打出浜地域の植栽活動に力を注いでいます。





【現場の周辺清掃】
 各作業所周辺の清掃活動を週に一度実施しています。周辺が綺麗になるのはもちろん、意識も向上し、作業所内でも整理整頓を含めた5S活動に心掛けています。近隣の皆様にも声をかけていただくこともあります。今期における清掃活動の回数は全作業所合

【現場における汚濁水処理】
 掘削により生じた濁水は、PH中和機能付き濁水処理機にて、濁度とPH値を放流基準内に抑えてから放流。作業所内から発生する環境変化で、周囲に対し影響が出ないように努めています。



【作業所事務所での日よけ対策】
 作業所事務所の日よけと室温の上昇を防ぐ工夫として、ゴーヤの栽培を行いました。お客様へのアピールもできました。

【作業所事務所での環境活動掲示板】
 作業所における環境活動を記録しています。



【河川への汚濁流出防止対策】

河川での作業時、汚濁防止フェンスの設置を
 施し作業を行いました。



【建設現場での分別収集の実施】

古紙の分別により産廃コストの削減に努めています。



【防音シートの活用】

外壁改装工事途中での近隣への生活環境配慮として、防
 音シートのシートを採用し、生活の妨げを和らげる努力
 にも取り組みました。



【環境活動掲示板による活動状況の把握】

環境活動掲示板には、現状の把握ができ、より身近な
 例えで意識向上に役立つよう、エコアクション信号と
 月々に排出する二酸化炭素量が東海道新幹線では何
 キロの距離を走行する量に値するのか、また月別排出
 量を森林で吸収した場合の面積を甲子園球場スコア
 ボード面積に例えて、分かりやすく敷居を低くする試み
 を行っています。

7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反、訴訟はありません。又、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘は以下の通りであります。

適用される法規制等と遵守状況

法規制等の名称	該当する要求事項	遵守評価
建築基準法	石綿その他の物質の飛散又は発散に対する衛生上の措置	遵守
労働安全衛生法	解体、改修工事に伴う「石綿」等の除去作業（石綿障害予防規則）	遵守
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	適正処理
建設リサイクル法	建設副産物の管理、排出	適正処理
騒音規制法	対象特定建設作業の届出、規制値の遵守	遵守
振動規制法	対象特定建設作業の届出、規制値の遵守	遵守
消防法	対象危険物保管の届出	遵守
水質汚濁防止法	工場及び事業場から公共用水域に排出される汚濁水を防ぎ公共用水域及び地下水の汚濁防止	遵守
地域ごみ出しルール	一般廃棄物の分別、収集、排出	適正処理
フロン排出抑制法	特定製品の点検及び回収事業者への引渡し	遵守

8 代表者による全体の評価と見直し結果

令和1年10月21日

昨年に続き工事部門での目標値達成が期間途中で達成不可能となる結果となりました。建設業の特性ではありますが工事量増加、重機作業の増加に伴い数値目標未達成の結果となりましたが、低炭素社会実現のため既存建物の有効再利用や省エネルギー提案を進め、各作業所においては近隣環境の維持に努め良い評価を励みに今後も更にエコアクション21の活動を推進し、より一層省エネルギー工法技術の採用や地域環境保全に貢献できる企業を目指してまいります。